



東京の会通信

No.280

2018年9月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会

〒162-0065 東京都新宿区

住吉町10-8 第1菊池ビル302号

TEL：03-3354-6377

(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>

e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100円

2018年度 東京の会第29回定期総会を開催

6月30日、全労済東京会館において東京の会第29回定期総会を開催しました。総会では、2017年度活動報告・会計報告・会計監査報告・業務監査報告、2018年度活動方針を提案し、全議案が承認されました。また、2018年度の役員を選出し、2018年度東京の会宣言を採択して終了しました。議案の概要を別掲しましたのでご参照ください。

定期総会后、記念講演会として、カルビー株式会社執行役員・人事総務本部長で一般社団法人CSRプロジェクト理事の武田雅子さんをお招きし「がんサバイバーの就労支援」と題してご講演いただきました。

続けて、復職や転職を経験したがんサバイバーの方3名と、講師の武田さん、聖路加国際病院相談支援センターがん相談支援室の橋本久美子さんにご参加いただき、東京の会会員で骨髄移植経験者の羽賀涼子さん(わたしのがんnet理事)の進行で、「働きながらがんと闘うために」をテーマにシンポジウムを行いました。

記念講演・シンポジウムについて参加された会員から感想を寄せていただきましたので掲載します。

働く仲間として気づきの多い講演会

講師の武田さんは企業の人事部門の第一線でご活躍される中、仕事の合間を縫って1年ものあいだ検査通院を繰り返し、その後がん宣告を受けてから5年間を治療に費やされたそうです。講演の様子からも講演内容からも前向きでエネルギッシュな印象の武田さんですが、薬の副作用で体調面だけでなく精神的にも不安定な日々が続いたということをお聞きし、やはり病気というものは自分の努力では抗えない様々な困難をもたらすのだと改めて感じました。

そんな中でも武田さんは、闘病中に患者会やグループカウンセリングに参加したり産業カウンセラーの資格を取得したり、現在は(一社)CSRプロジェクトの理事として患者さんが悩みを打ち明けられる場を提供されたり、患者さんを支える各分野の専門家を育成するなど、ご自身が困難に直面しながらもそれを原動力

に周囲や社会をより良い方向へ変えていこうと精力的に活動されており、その経験談に強く心を打たれました。

後半はがん患者の方々と共に働く仲間あるいは人事部員としての心構えについて、多角的な視点からのアドバイスをいただきました。特に印象に残ったのは、働く仲間を「がん患者」というフィルタをかけて見ないこと、「がん患者」にも個性・ダイバーシティがあるのでそれを大切に、決して一括りにしないということです。患者さんに対しては、情報に振り回されず主治医を信じてよく相談し、外部のリソースを有効活用することをアドバイスとして挙げておられました。働く者として、労働組合役員という私自身の立場として、大変気付きの多い講演会でした。これを糧に、相手の想いを精一杯想像しながら、自分にできる小さなことから取り組んでいければと思います。(甲斐彩子)

がん患者の就労に企業・社会の理解を

今回の記念講演会、シンポジウムはがん患者の就労、就労復帰に焦点をあてたものでした。がん患者にとって闘病だけでも大変ですが、仕事を続けていけるか否かは命に係わる問題です。

患者経験者の進行役と3名のパネリストに加え、実際に臨床現場で患者支援活動を行っておられる橋本久美子氏と講演会講師の武田雅子氏にコメンテーターと



して参加していただいたシンポジウムでは、治療や再発の不安などいろいろなことを抱えながらの就活のご苦労が語られました。

がんの治療後は退院しても最初は体力、免疫力が低下し、食べられない、たばこの煙のあるところへは行けないなど、すぐには通常業務には戻れません。企業や周りの人たちの理解と協力が必要です。ただ、人により困っていることはさまざまで、言われなければわからないこともあり、多面的に対応する必要性を感じました

パネリストの中、お二人は発病前の会社で仕事に復帰できたとのことで、周りの方の理解協力に恵まれていて良かったなと思いました。彼らが働くことでがん患者への理解が深まり今後対応がより良くなるよう、会社に社会に影響をあたえていただけたらうれしいなと思います。家族を抱えていたり新たに医療関係で道を切り開いたりお話しの中には強さを感じました。

一方、お一人はがん治療後の就活で不安も多かったのではないかと思います。がん治療は高額な治療費がかかっていますから自分の中での就活へのプレッシャーは大きいのではと推察します。ケアする立場からのお話もお聞きして、思うように働けない時には、

経済面・精神面をサポートする各種の情報が、患者に分かりやすく届くようになることを願います。我が国の諸制度は申請主義が基本となっており、制度について知らず、自ら窓口へ行って申請しないと制度の恩恵を受けられないのです。

三人にお聞きしただけでもさまざまな状況なのに、がんの種類が違えばまた新たな悩みがあるので機会があればいろいろながん患者のお話を聞いてみたいとも思いました。

ケアする側のお話しは勿論ですが、患者さんの声には初めて知ることも多く良いお話を聞いたシンポジウムでした。
(櫻井 洋子)



2017年度 東京の会 活動報告

2017.4.1～2018.3.31

■総会・定例会・おりおり(会報発送作業)

- (1)定期総会 第28回定期総会6/24開催(於：全労済東京会館会議室)
- (2)定例会 毎月第4土曜日12回開催(於：全労済東京会館会議室・全国協議会)
- (3)おりおり 隔月第1土曜日6回開催(奇数月)(於：品川運輸会議室)
(東京の会会報・骨髄バンクニュース・さい帯血バンクニュース等、発送作業)

■ドナー登録会

- (1)日赤献血ルームでの献血・骨髄バンクドナー登録推進活動 献血者数(全血/成分)
- 5/13(土)有楽町献血ルーム ドナー登録者11名
180(92/88)
- 6/10(土)新宿東口献血ルーム ドナー登録者22名
147(91/56)
- 7/8(土)有楽町献血ルーム ドナー登録者16名
211(122/89)
- 10/14(土)新宿東口献血ルーム ドナー登録者14名
123(81/42)
- 12/9(土)有楽町献血ルーム ドナー登録者14名
201(119/82)
- '18/1/20(土)新宿東口献血ルームドナー登録者20名
152(100/52)

2/17(土)新宿東口献血ルーム ドナー登録者20名
126(76/50)

2017年度実績ドナー登録者117名 1,140(681/459)

◆東京の会では東京都赤十字血液センターのご協力のもと、都内の献血ルームでドナー登録推進活動を行っています。2017年度は有楽町と新宿東口の2ヶ所の献血ルームで計7回行い、117名にドナー登録していただきました。活動に参加したメンバーの皆様、お疲れ様でした。

献血ルームのスタッフは来場者にスムーズに献血していただくことに心を砕かれています。私達はその献血の流れを乱さずに出来るだけ多くの人にドナー登録の声をかけて、説明を聞いて登録していただくにはどうしたら良いか、知恵を絞り少しずつ改善を加えながら活動手順を整えてきました。

今年度はそれが説明員にも献血ルームスタッフにも浸透してきて、活動し易くなってきたように感じます。活動時間も来場者が多くなる夕方にシフトして、従来の10:30～16:30を6月から11:00～17:00に変更しました。

活動日が土砂降りの大雨だったり、お祭りがあってもかえって献血ルームへの来場者が減ったりで、成果が上がらない日もありましたが、短い時間しか参加出来

ないメンバーも都合が付く限り欠かさず参加して東京の会の説明員総出で頑張り、ほぼ目標を達成しました。

人手が足りない日は説明員ではないメンバーも参加して、チラシ配りやルームの外で献血やドナー登録の呼びかけを担当してくれました。そして何より今年度東京の会の献血ルーム活動に活気を与えてくれたのは、4月に若いメンバーが説明員デビューしたこと、7月から他県で説明員経験のあるさらに若い20代の新メンバーが加わったことでした。

長くお世話になった新宿東口献血ルームが4月15日に閉じるため、2月17日がそこでの最後の活動になりました。既登録の人が増えてきたところでしたので、来年度からは別のルームに活動場所を変えて、更に登録者を増やすことに力を注ぎたいと思います。

iPS細胞ストックへの協力や献血者コードの記入で説明事項が増え、「献血前には10分で説明を終えて欲しい」との献血ルーム側からの要望に応じるのはなかなか難しく、更なる説明員の努力、研鑽が必要です。活動に参加出来る説明員を増やすことも今後の東京の会の課題にして、これからも献血ルームでのドナー登録推進活動を継続して行きたいと思います。

3 患者支援活動

(1)医療その他セミナー

6/24 第28回定期総会後の講演会で、患者さん含むボランティアのための講演会

「AYA世代がん患者の課題とサポート」

昭和大学藤が丘病院小児科 山本 将平先生

「[STAND UP!!] AYA世代のがん患者グループからの活動の報告や自身の体験談」

～体験談と会場出席者含めた質疑応答意見交換～

司会コーディネーター 大谷貴子さん/アドバイザー 山本将平先生

「STAND UP!!」事務局長 熊耳宏介さん・福田さん・吉川さん・櫻井さん

4 骨髄移植ドナー支援制度の実施についての要請について

ドナー支援制度、今年度23自治体で実現。都内47自治体(23区、23市、1町)に広がる

骨髄バンクを支援する東京の会は、平成26年、都議会に対して行ったドナー支援制度策定の請願が採択されて以来、都内全自治体での制度導入を目指して未実施自治体への要請、議会への陳情を行ってきました。

4月初旬の当会の調査(ホームページ閲覧、問い合わせ)によりますと、今年度新たに実施もしくは実施予定(予算化)は、区部では、千代田区、中央区、港区、文京区、江東区、北区、足立区、葛飾区、板橋区、市部では立川市、昭島市、国立市、狛江市、東大和市、多摩市、清瀬市、武蔵村山市、東村山市、福生市、羽村市、国分寺市、あきる野市、町村部では瑞穂町(1月1日付)の23自治体でスタート、もしくは予定であることが確認されました。

この調査により、昨年度までの実施自治体と合わせて47自治体で実現したことになります。特に区部では23区全体での実施となり、ドナーになる方が骨髄を提供しやすい環境整備がより一層前進したと評価できます。一方で、要請陳情を行った多摩地区の3市で残念ながら今年度当初からの実現には至りませんでした。また年度途中実施の可能性もあることから、当会としては、期待を込めて推移を見守っていこうと思います。

各自治体でドナー支援制度が策定された結果、平成28年度(平成28年4月～29年3月)は、9自治体33名のドナーの方がこの制度の適用を受けていますが、平成29年度に適用された方々の人数等は都疾病対策課の6月頃の集約を待ちたいと思います。

昨年から取り組んできた自治体への働きかけによって、今年度は実施自治体数が約2倍となりました。これも、真夏の時期に、一つずつ自治体の議会を回り行った陳情を、各自治体と議会が真剣に受け止めていただいた結果であり、感謝いたします。一方では、居住する自治体によって生じた格差を今年はずべて解決することができませんでした。

東京の会は、未実施自治体が残ってしまった現状を踏まえて、要請活動を来年度も継続していきます。一日も早く全自治体での実現のために。

5 普及広報活動

(1)会報「東京の会通信」発行

隔月1日発行(奇数月) / 第1土曜日発送6回発行。2018年3月号まで277号発行

会報と共に、骨髄バンクニュース、さい帯血バンクニュース、その他適宜、発送

(2)セミナー・講演会・イベント開催および参加

5/27 全国協議会ボランティアの集いin東京「未来に、輝き続けるいのち」「患者・ドナー支援活動」の紹介、参加

5/28 全国協議会総会 加盟団体として全国協議会総会へ参加。

5/10 東京都特殊疾病対策課へ、小池百合子都知事あての要請文書を提出

疾病対策課からは岩村係長(課長補佐)と白勢彩乃献血移植対策担当が出席しました。私たちの要望書について、「皆さんの生の声があるとよいのでは、進め方はかわってくるので助かります、全域での実施については承りますが、区市町村の合意を得て進めていきたい」との表明がありました。

9/6 東京都議会 各政党への要請活動について

15:00～15:30 日本共産党都議団

16:00～16:30 都議会民進党

ドナー助成制度の全自治体での実施の要請をおこなう。

9/16 新宿熊野神社祭礼・西口睦イベント会場で骨髄バンク普及啓発と募金活動をおこなう。街頭での骨髄バンクチラシ・ティッシュを配布。街頭募

金集まる。

9/24 品川宿場祭り 東京港南マリンロータリクラブに協力 普及啓発活動・バザー出店。マリンのメンバーは、最少人数しか参加できないので、規模は縮小。例年の長野・松川からの仕入れは止めて、大田市場からの仕入れのみとなりました。野菜・果物の数は、例年よりも少なく、リンゴ・梨・トマトは早々に売り切れ（試食販売したため）でしたが、野菜は売り切るのに苦戦しました。

10/9 「グリーンリボンランニングフェスティバル」 駒沢公園陸上競技場
全国協議会をとおしてランニング参加。7人で42.195km完走。

10/14 プルデンシャル・ボランティアデーでの骨髓バンク普及啓発。神田第5営業所内
土曜日に、社員とその子供たち50名ほどが会社事務所へ集まり骨髓バンクの普及啓発講座。箱根駅伝とプルデンシャル生命出合いの話、移植患者ご夫婦が闘病から移植までの体験談を中心に話しました。その後場所を有楽町献血ルームに移動し(社員40名くらいが参加)、交通会館前で献血とドナー登録の声掛けを1時間しました。
社員の方9名がドナー登録をし、その他献血にも10名以上が協力してくれました。

11/3 「バラのかおりのコンサート」25回ピアノ三重奏コンサート(発明会館ホール)
曲の始まりで演奏者から直接、曲の紹介と作曲者の生きている時代背景などを分かりやすく説明してくれるのが良い。他のコンサートではない趣向で、作曲家や曲に対して深く思い入れることが出来る。シンポジウムが良かった。ドナーも患者も議員同士で、話が上手なのでポイントを押さえた体験談が聞けた。司会も良かった。発明会館ホールの使用が今年で最後になってしまうのが残念。
チケット販売枚数162枚/寄付・募金箱86,500円/バザー・バラの花等91,000円

当日入場者 154名 チケット招待券8枚 新聞社招待14枚

最終的な収益は、30万円程度となった。全国協議会に、30,000円の寄付をおこなう。

11/11~12 「スノーバンクイベント2017」(代々木公園)に参加。荒井daze善正さんが代々木公園に雪を降らすスノーボードイベント。今年も代々木公園に2日間献血バスを誘致。2日間で、骨髓バンク登録104人 献血214人 過去最高の人数で、特に若い人の協力が大きかった。

1/2~3 箱根駅伝沿道にて普及啓発(田町・箱根宮ノ下)および募金活動(箱根宮ノ下)
東京の会からのべ17名参加。首都圏ボランティア

とプルデンシャル生命社員300名以上が沿道でのほりを持って応援。TVを通して患者さんを勇気付ける。テレビで赤いのほりが放映される場面も格段と増えている。参加したボランティアさん(全国協議会) 延べ56人。

掲げたノボリ(全国協議会) 105本(1~3日箱根の設置含む)

配付したティッシュセット1,902個 宮ノ下での募金 46,809円

2/25 「骨髓バンクチャリティーロックイベント『骨フェス』」 渋谷オンエアウエスト
CMLで闘病中の患者、永田義史さんが、勤務している「NTTドコモ」の周年企画に、以下の企画案を提出し採用され、全国協議会をとおして東京の会に照会。

「私自身が1年ほど前に白血病と診断され、現在、グリベックで闘病中です。そんな中、何か生きる意義、病気になった意味?を見出したい、上記ライブの企画を社内応募し、ドコモグループ全社員投票の上、採用され、開催することとなりました。」
骨髓バンク告知をしたイベント。6組のロックバンドが出演して渋谷イベントホールに400名以上入場。開演前の30分、永田さん・大谷貴子さん・荒井daze育子夫婦、ドナーの黄木奈々絵さんが舞台から骨髓バンクについて体験談を交えながら話し、ロビーに控えた東京の会説明員が詳細説明をして登録の手続きをして献血ルームへ行って採血してもらうようにしました。説明員のブースでは、20代13名・30代22名・40代19名に対し計54冊のチャンスをお渡ししました。全員に詳細説明をした訳ではありませんが、声掛けをしていますので、献血ルームでの採血ドナー登録につながると思います。(すでに永田さんのもとに登録したとの連絡、複数あり) 骨髓バンクに関心のなかった若者たちに、少しは印象に残るイベントとなったと思います。

3/11 東京新都心ライオンズクラブ他東日本大震災復興支援チャリティー「私たちは忘れない3/11」新宿中央公園でテントを提供いただきチラシとティッシュ配布。東京の会でバザーや宿場まつりで集めた雑貨類を販売した。今日の売り上げと募金箱を合わせて合計で25,843円でした。

3/17 全国協議会関東ブロックセミナー(船橋市勤労市民センター) 関東近県ボランティア団体が参加。法改正やドナー支援制度の導入について。各地ボランティア団体との意見交換。東京の会4名(全体20名)参加。

以上

2017年度 決算報告

【収入の部】		【支出の部】		【資産増減明細】		
会費	243,000	収益事業費	428,909	資産内容	繰越資産期末	前年度繰越期首
寄付	972,964	業務諸経費	64,669	現金	0	0
賛助会費	30,000	普及広報費	467,640	郵便振替口座	0	23,000
事業収入	601,520	通信発送費	518,684	郵便貯金	1,587,337	1,965,606
受取利息	15	交通費	174,000	普通預金	72,973	266,865
助成金	54,000	賃借料	623,592	貯藏品	0	0
		光熱費	10,736	敷金	45,000	45,000
小計	1,901,499	修繕費	4,536	前受会費	0	0
		損害保険料	5,100	差引	1,705,310	2,300,471
合計	1,901,499	火災保険料	25,000	当期剰余金		-595,161
		全国協議会会費	120,000	合計	1,705,310	1,705,310
		支払手数料	16,794			
		寄付金(全国へ)	37,000			
		小計	2,496,660			
		当期剰余金	-595,161			
		合計	1,901,499			

＜収支差額＞
収入－支出＝-595,161

＜資産増減＞
期末－期首＝-595,161

2018年度活動方針

〈1〉骨髄バンクの普及啓発活動

骨髄バンクへのドナー登録や骨髄提供に対する市民や社会の理解を深めるため、イベントの開催や地域における普及啓発活動、会報やインターネットを活用した情報発信をおこないます。特に若年層への普及啓発を強化します。

〈2〉ドナー登録推進

骨髄バンクのドナー登録者数は48万人を超えましたが、移植に至る患者さんは約6割にとどまっています。日赤の協力の下、都内献血ルームでドナー登録を呼び掛ける活動を継続します。

〈3〉より機能する移植医療を目指して

(1)東京都による助成制度を活用したドナー給付制度が都内全域で導入されるよう、東京都や未実施自治体に働きかけを継続します。

(2)骨髄バンクの財政安定化を求めるボランティア団体の運動が実り、国の補助金の増額や医療保険の点数加算による患者負担金の値下げが実現しました。今後も患者負担金廃止の実現に向けて運動を継続します。

(3)骨髄バンクのドナーコーディネーター期間の大幅な短

縮、骨髄・さい帯血バンクの一体的運営、日赤によるドナーリクルート、法律の改正など、さらなる患者救済につながる政策の実現を求めます。

〈4〉患者・患者家族への情報提供と支援

さまざまな状況下の患者・患者家族の皆さんが、難病と向き合い闘病ができるよう、医療情報等の提供や、QOL（生活の質）向上、社会復帰などにむけた支援活動を積極的におこないます。また患者会等と連携をはかり、患者さんの現状を理解するとともに、共同の取り組みをおこないます。

〈5〉会報の発行

会報「東京の会通信」を発行し、患者・ドナーのメッセージや活動報告を伝えながら、造血幹細胞移植医療の様々な課題に対する提言をおこないます。

〈6〉活動の活性化と他組織との連携、財政基盤の強化

各ボランティアの活動を支援するとともに、新たな視点を持つ新規会員の募集をおこないます。また、他の組織との交流や協力関係を強化し、活動を活性化します。財政基盤の立て直しのため、経費の見直し、会員増や寄付の確保につとめます。

2018年度東京の役員

《代表》 三瓶 和義

《代表代理》 若木 換

《事務局長》 二見 茂男

《会計》 大塚 礼子

森永 富美子

《会計監査》 大塚 和博

竹崎 恵子

《業務監査》 柴谷 みち子

名川 一史

《顧問》 野村 正満

新田 恭平

2018年度・東京の会宣言

私たち「骨髄バンクを支援する東京の会」は、2018年度の活動を開始するにあたり、以下のとおり宣言します。

- 1.患者救済とドナーの安全を活動理念とし、造血幹細胞移植医療を必要とするすべての患者さんが、希望する治療を受けられるよう、ドナー登録を推進し、環境整備や制度確立を目指して活動します。
- 2.広く社会に対し、血液難病や造血幹細胞移植医療に対する理解を深める活動をおこないます。特に、若年層に向けて発信し、次世代につながる活動を目指します。
- 3.患者擁護の立場に立ち、どんな困難にも臆せず、明るく楽しい活動を展開していきます。

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (平成30年7月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	487,627	59,550	54,317
6-7月登録分	5,852	687	497
6-7月抹消数	4,038	458	-
実質登録増	1,814	229	-

患者とドナー登録・適合状況(7月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	742,355人
ドナー登録抹消者数(累計)	254,728人
HLA適合報告ドナー数(累計)	296,370人
実質登録患者実数(現在)	3,930人(国内1,345人)
HLA適合患者数(累計)	43,244人(患者累計数の79.6%)
非血縁移植実施数	22,189例(6-7月実施203例)

71名のドナーに支援金、制度実施は47自治体に拡大

東京の会は、都疾病対策課に対して、平成29年度骨髄移植ドナー支援制度の適用を受けた人数について問い合わせを行い、6月29日になりFAXでの回答がありました。

その結果、東京都の24自治体で71名の方がドナー支援制度の対象となり、事業所からは12か所の申請があったこと、また制度を策定した自治体の中で、該当者がなかったのが1自治体あることがわかりました。昨年同時期の調査では対象となった方が9自治体で33名、事業所数は7か所でしたので、それぞれ大幅に増加しています。

一方で、骨髄バンクが公表している「都道府県別移植患者・提供者数」によりますと、平成29年度(平成29年4月～平成30年3月)にドナーとなった東京都の

居住者は115人となっています。制度はあるが申請しなかった人がいたとしても、40名前後の方が居住している自治体に制度がないためにドナー支援金の給付を受けられなかったものと推測されます。

今年4月の調査では、新たに23自治体でドナー支援制度が開始され、年度当初時点での制度実施は、多摩地区の3市と西多摩地区の町村、島しょ部の自治体を除く47自治体となったことが確認できました。今年度はさらに制度適用者が増えることが期待されます。

しかし、制度未実施自治体が残っている現状では、居住地による不公平は払拭されていません。東京の会では、年度途中からの実施を含め引き続き未実施自治体への働きかけを行います。(代表：三瓶和義)

東京の会 「9月、10月定例会」 のお知らせ

- 9月15日(土)、10月27日(土)午後5時30分より
- ★会場が新宿の全労済東京会館に戻りました★
- 会場：全労済東京会館3階会議室
- ※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)
- ※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分
- 青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側
- ※11月定例会予定・11月24日(土)午後5時30分より

11月会報発送 「おりおり」のお知らせ

- 10月の「おりおり」はありません!
- 発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。
- 11月3日(土)13時00分より
- ※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。
- 場所：品川運輸・4階会議室(品川区東大井2-1-8)
- JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分
- ※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。
- ※2019年1月「おりおり」予定・1月12日(土)13時00分より

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

都議会公明党・共産党、都疾病対策課へ予算要望

東京の会は7月27日午後、都議会公明党、日本共産党東京都議団それぞれと、来年度の予算要望と懇談を行いました。

公明党は谷村孝彦議員、大松あきら議員、細田いさむ議員、栗林のり子議員、共産党は大山とも子議員、藤田りょうこ議員、原田あきら議員が対応してくださいました。東京の会からは、参加者全員が要望に沿った発言をしました。両党とも私たちの活動と要望を熱心に聞き取り、メモを取るなどして、全面的な協力を表明しました。

また、東京都福祉保健局疾病対策課を訪問し、同じ内容の要望書を都知事宛に提出しました。疾病対策課では、榎本奈緒氏（課長補佐）、白勢彩乃氏（献血移植対策担当）が対応し、要望に対しては、若い方や学校への普及啓発に苦慮している状況などの説明があり

ました。東京の会からは、献血ルームでドナー登録もできることを知らない方も多いことから、東京都としても広く情報が行き渡るよう広報をお願いしました。

ドナー支援制度については、23区、23市、1町が実施となりましたが、未実施自治体に対しては東京都から働きかけが必要なことを強調しました。また、東京の会が都に問い合わせていた自治体ごとのドナー支援制度適用者数については「公表できない」とのことでしたが、都の担当者から具体的な理由の説明はありませんでした。

この日の要望懇談には、東京の会より三瓶代表、二見事務局長、新田顧問、大塚礼子、中谷光子、櫻井洋子、新田雅子（敬称略）が参加しました。なお、都議会立憲民主党との要望懇談は9月5日（水）午後予定です。（代表：三瓶和義）

秋のコンサートの新名称は「響」です！

東京の会の秋恒例のチャリティコンサートは、今年は11月4日の日曜日に文京区本郷の「求道会館」で開催です。昨年までとは場所が変わって、雰囲気もガラリと変わるので、コンサートの名称も新しくしました。「ピアノ三重奏コンサート 響」です！

求道会館は本来は仏教のお堂で、唱えた念仏が高いお堂の天井まで響き渡るように設計されています。その音の響きの素晴らしさに感動された演奏者の小澤洋介さんと三戸素子さんから、東京の会のコンサート会場としてご紹介いただきました。

コンサートにお越しのお客様にも是非その響きの良さを味わっていただきたく、「響」（ひびき）とネーミングしました。

東京の会のコンサートではこれまでも手作りの小物のチャリティー販売をしてきましたが、今年も行います。昨年までの「バラのかおりのコンサート」ではバラにちなんだグッズに限定して販売していましたが、今年はその流れを汲むバラ柄のポーチや手帳カバーに加えて、猫の柄のトートバッグを販売します。世の中猫ブームの昨今、東京の会やその周辺にも大の猫好きが多いようです。そんな猫好きの人にも、お買い物バッグとして、あるいは音楽愛好家には楽譜が入る大き目でレッスンバッグにぴったりなので、是非お買い上げいただき、骨髄バンクチャリティにご協力下さい。

多くの皆様のご来場をお待ちしています！



開催日時：2018年11月4日（日）

開場14：30開演15：00

会場：求道会館（文京区本郷6-20-5）

南北線「東大前」駅下車徒歩5分

丸ノ内線・大江戸線「本郷3丁目」駅下車徒歩15分

演奏者：バイオリン 三戸素子、チェロ 小澤洋介、
ピアノ 高田匡隆

演奏曲目：ベートーヴェン ピアノ三重奏曲第5番ニ長調「幽霊」

マルタン アイルランド民謡による三重奏曲

ブラームス ピアノ三重奏曲第2番ハ長調作品87

入場料：前売り3000円 当日券3500円 全席自由

編集者

雑記



▼今月号の記事にもある通り、東京の会は7月27日に都議会公明党、日本共産党東京都議団と懇談しました。例年、都議会の政党から予算要望ヒアリングの案内が来ており、東京の会として骨髄バンクに関する都の政策について要望を行っています。また同日、東京都における骨髄バンクの所管部署である東京都福祉保健局疾病対策課を訪問し、都知事あてに同じ内容の要望書を提出しました。

▼今回の要望事項は三つです。一つは、ドナー支援制度の都内全自治体での実施です。特別区や市には三瓶代表を中心に東京の会のメンバーが精力的に働きかけを行い、多摩地区の2市を除いて制度が実施されましたが、規模の小さい町村部を中心に未実施自治体が残っており、島しょ部の町村もあって東京の会としても働きかけが難しい状況です。

▼東京都のドナー支援制度は各自治体がドナー支援金を支出した場合に都が半額を補助するというもので、自治体が制度を実施しなければ対象となりません。都はこれまで制度の周知は行うものの実施は自治体任せでした。しかし、ここまで制度が広がった状況を踏まえれば、居住地による不公平をなくすためにも、都として都内全域での制度実施に向けた努力をすべきです。

▼二つ目の要望は、東京都による骨髄バンクドナー登録説明員の養成です。東京の会は以前から都が雇用する説明員の献血ルームへの配置を要望してきました。しかし、その前提となっていた国の緊急雇用創出基金事業が終了したこともあり、実現には至りませんでした。そこで発想を転換し、ボランティア説明員の募集

と養成、活動の場の確保などを東京都の事業として行うよう求めることにしました。

▼東京では、献血並行登録会は財団が、献血ルームの登録推進活動は東京の会が日赤と協力して行っており、都は関わっていません。一方他県では、説明員の養成や献血並行登録会の実施計画策定など、県が主体的にドナー登録を推進しているところもあります。東京の会は献血ルームの活動を、平日を含めて拡大したいのですが、担い手となる説明員が不足しています。献血並行登録会も説明員が増えれば回数を増やせるはずですが。

▼三つ目は、都内の小・中・高校における骨髄バンクの普及啓発です。財団や日赤が作成している児童・学生向けのパンフレットの学校への配布、骨髄バンクやドナー登録についての特別授業や講演会等の実施を求めています。この要望も数年継続して行っていますが、都の回答は「教育委員会等関係先に要望を伝える」というもので、具体化していません。

▼少子高齢化社会が進行する中では、将来を担う若者に骨髄バンクを知ってもらい、ドナー登録者を増やすことが骨髄バンク事業の維持・発展には不可欠です。東京都や各自治体には教育委員会があり各学校の考え方も様々なので、一律的に進めることが難しいのは理解しますが、骨髄バンク事業を主管する福祉保健局として、積極的な取り組みを求めます。

▼他県では、骨髄バンクのドナー登録推進に向けて県・日赤・ボランティア団体による会議が定期的に行われていますが、東京都では久しく開催されていません。今回、疾病対策課担当者との懇談では、要望事項について率直に話ができたと感じました。東京都にはボランティア団体や財団・日赤との協力関係をもっと強化してほしいと思います。私たち東京の会も協力は惜しみません。(s)

東京ドナー登録会 予定(9月・10月)

9月13日(木) 豊島区役所

10月21日(日) 小平市民祭り

9月27日(木) パレスサイドビル

10月31日(水) 台東区役所

10月20日(土) 鶴川駅前

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2018.6.16~8.15)

渋谷俊徳さん 10,000円/武田雅子さん 10,000円/橋本久美子さん 5,000円/三瓶和義さん 7,000円
竹崎恵子さん 5,000円/中谷哲郎さん 10,000円/光江健太郎さん 6,000円/二見茂男さん 3,000円
櫻井正和さん 2,000円/名川一史さん 10,000円/山崎裕一さん 7,000円/保居範昭さん 4,000円
若林秀子さん 10,000円/榊マルゼン 4,100円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

郵便振替口座番号

00100-1-555195

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / ○一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義 **公的骨髄バンクを支援する東京の会**